

ランテ著 『コー地方及び昔のノルマンディ地方に属するいくつかの地域の女性服』

Lanté, Louis Marie, Costumes des femmes du pays de Caux, et de plusieurs autres parties de l'ancienne province de Normandie. Paris, chez l'éditeur, 1827. 44p. 105 plates (copper. hand.col.) 33.6×26.5cm 383.135-I (文献番号4-1)

Hiler p.526 Colas 1770~1773 Lipp.1196

コーとはセーヌ河北部一帯をさす地方名で、別名をコーショワーズ(Cauchoise)ともいった。ノルマンディ州の北東部であるが、それに若干のフランス革命前におけるノルマンディ州の女子服を含んで、105枚からなる銅版手彩色の服装図集である。そのほとんどの原画者がランテであり、刻版と手彩色はM. ガティーヌ (M.Gatine) が担当している。ランテの作品は抜群に優れており、1枚1枚が名作になっている。

とりわけ、この地方の丈高いレースのかぶり物は、いまでも世界的に著名で、それがこの地方の民俗服の象徴になっているが、本書にはエンパイア様式期のそれが、さまざまな形で登場してくるので見ても楽しい。これらは専らランテが1819年にノルマンディに旅行した際のスケッチが土台になっている。

コー地方やノルマンディに、なぜこうした独特のレースの丈高いかぶり物が残っているのかについて、本書のまえがきは、十字軍遠征の際、シリアから持ち帰ったのが始まりで、すでに1325年、英王チャールズ4世に嫁したフランスのイザベルを描いたフロワサールの写本の細密画に基づいたモンフォコンの『君主制フランスの記念碑』Bernard de Montfaucon, *Monuments de la monarchie française*, 1729-33 (K383.135-M-1~5)にもこの丈高いかぶり物が描かれているし、マイヨー (M.Mal-liot) の『昔の市民や軍人の服装, 習俗, 宗教上の慣習に関する調査』1804年 (383.1-M-1~3) の第3巻132頁にもこのシリア風のかぶり物が描かれている、ということ指摘している。

ランテは元来風景画家で1789年生まれ、没年は不詳であるがボードワイエに師事し、1824年から1838年までのサロンに水彩画を出品している。また1817年以来『ジュールナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』誌1797-1839年 (383.135-J) のプレート原画も担当している。



タピスリーでも知られるバイユーの若い娘